

教区全体会議を開催
令和五年度予算案を可決

昨年十二月一日、教務支庁にて全体会議が開催された。まだまだコロナ禍が終息しない状況を鑑み、今回も各部各会の責任者、支部長、代表の地方委員のみの出席となり、芹澤常太郎教区長室長司会のもと進められた。

親神様、教祖、祖霊様礼拝に続いて挨拶に立たれた鈴木道輝教区長は、冒頭、本年九月の豪雨災害に、災害救援ひのきしん隊を中心に、一手一つの救援活動が行われたが、コロナ禍以来、動きが現れ



てこない中であって、久しぶりに勇んだ教区活動の姿を見せていただけで本当にありがたかったことだと、活動に携わった関係者の労に對して感謝と労いの言葉を述べられた

続いてこの度お打ち出し頂いた教祖百四十年祭の年祭活動について、「これから三年千日の歩みを進めるにあたり、それぞれ教祖へのご恩報じの心を定めて年祭活動へと向うわけですが、中略この度の年祭は、自分にとってどういう年祭なのか、今の自分の立場、立ち位置を今一度確認することが年祭活動に入る前に大切なことだと思います」と述べられ、「これがないと、いつ

もの年祭になってしまふと思えます。教祖百四十年祭はお互いにとつて、たった一度の年祭で、特別な年祭。自分の今の姿を確認せずには心も定めにしないと、思いません。」そして「何も本部が結構になるためにするのはなく、自分や自分の教会が結構になるため、ようばく家庭、それぞれの家が結構にならせていただくため、教祖のご恩を通らせていただく、これが年祭活動であります。当たり前のことですが、これを忘れると、やらされているという考えになつてしまうことだつてあると思いません。これを私は忘れてはいけないと思えます」との心構えを述べられた。

最後に「教区、支部でも心を揃え勤め進ませてください。教祖にお喜びいただく道の歩みであることは申すまでもなく、しつかりと心定めさせていただいて、教区一手一つとなつて、年祭へ向かわせていただきますことをお願いいたします」と結びました。

続いて台風十五号被災現場への教区災救援活動報告として山口志朗災害救援ひのきしん隊教区隊長より、九月二十四日教務支庁の片付けから始まり、主に静岡市葵区、清水区、磐田市、袋井市へ七次にわたり延べ千六百二十名が十一月三十日まで出動が行われたこと、



その間怪我人が一人も出なかつたことなど報告がなされた。(六次隊七次隊の記録は次ページ)

この後各部会からとして、教務部長鈴木芳秋主事より話があつた。その後、親神様、教祖、祖霊様を礼拝して閉会した。

青年会

教区青年会は3日、おやさとしん隊に入隊。ひのきしん隊に12名の参加があった。

同会では、平日仕事に従事し、なかなか青年会活動に参加できない会員にも会活動やおぢばでの伏せ込みを實踐してもらおうと青年会ひのきしん隊を計画。昨年から一日単位で入隊できることから、土日を含んだ日程を組む、県内の会員に声をかけてきた。

出発は、2日夕方。県内を東から順に周り、会員を拾いながらおぢばへ向かった。

翌3日は、2現場に分かれての実働。旧青年会本部解体現場のグループでは、屋根に登り瓦降ろしや崩した壁の運搬などの作業にあたった。

岩室倉庫のグループでは、神苑中庭で使用されたパイプ椅子の点



検、倉庫整理を行った。

同日には佐野原分会の入隊もあり、休憩時間では交流を楽しんだ。

4日は、宿泊場所となった百母屋の清掃を行い、帰路に就いた。

期間中、県内出身で本部勤務している会員や天理大学生などが顔を出してくれ、親睦を深めたり、新たな人材の発掘もすることができ、有意義な時間を過ごした。



教区青年会では、青年会層だからこそできる活動を通して教理を深めたり、横の繋がりを広め、これからの年祭活動に向け勇んで歩んでいきたい。

学生会

立教185年静岡教区学生会のつどい

12月4日、教区学生会は教務支庁を会場に「静岡教区学生会のつどい」を開催。8人の参加がありました。

参加者は神殿に集合し、学生担当委員会スナップ主導のウォーミングアップに参加。ベテランスナップが心を開くお手伝いをし、教区学生会行事にが初めてという参加者もいつの間にか笑顔に。お互いを知り、すつかり打ち解けた参加者は、教務支庁床を使ったウォー



クラリーに挑みました。

その後、ハッピー、白靴下を身に着け神殿へ。全員で親神様への御供物を調饌し、献饌をさせていただき、おつとめ、よろづよ八首をつとめました。

おつとめの後、岡野多吉学担委員長より、お話を聞かせていただき、教祖百四十年祭三年千日を目前とした今、教祖のひながたを元におつとめの大切さや教祖のひながたを懸命に求め辿った先人の思いに触れ、学生でもできることがあることに気が付いてもらい実動することの大切さを伝えました。

その後、神殿で記念撮影をして解散となりました。

これからもお道の学生として繋がりが合う場をつくり、お道に、教会へと繋がっていくように努めて参ります。どうぞご理解、ご協力を賜りますようお願い致します。

令和4年 台風15号 静岡教区災害救援ひのきしん隊出動記録

11月14日以降の出動記録

11月14日	清水区杉山地区	被災者宅 裏山 土砂、倒木撤去作業(明日も引き続き、撤去作業)	14
11月15日	清水区杉山地区	被災者宅 裏山 土砂、倒木撤去作業	19
11月16日	清水区高部団地	被災した集会場のリフォームの為、集会場内の全ての物品を団地内の2部屋に移動し、不要物品は処分場に搬入。集会場横、物置倉庫解体	4
	清水区高橋地区	被災者宅、壁剥がし、家具移動、断熱材剥がし	7
11月28日	清水区石川新町地区	被災者宅、フローリングにこびり付いた泥落とし、サッシの清掃、植え込みに溜まった泥の撤去、エアコン室外機取外し、災害ゴミの搬出	5
	長崎地区	被災者宅 倉庫解体、瓦礫撤去	22
長崎新田地区	被災者宅 床下清掃・消毒噴霧作業		
11月30日	両河内地区	田畑の流木撤去災害ゴミの搬出	18
	両河内地区	田畑の流木撤去作業	

9月24日～11月30日までの出動のべ人数

1062名

新任・教会長に就任して

西駿支部

益津大教会部属

岡部分教会二代会長

阿部 道治



皆様方のお陰で無事に就任奉告祭を終えさせて頂きました。就任奉告祭では大教会長様ご夫妻をはじめ、朝比奈分教会長様ご夫妻のご臨席を賜り、信者、また信仰ない方もご拝頂きました。

私は奉告祭に向けて初めての参拝者、初めておつとめをつとめて下さるおつとめ奉仕者の丹精を目標につとめさせて頂きました。それぞれ家の霊様が伏せ込み下されたこの教会を知って頂きたいと思つたからです。

二十二年前、喜びと歓喜に満ちた教会設立奉告祭、賑やかに且つ盛大に迎えさせて頂いた姿をお見せ頂きました。しかし、教会設立から今日までには、度重なる厳しい神様のお仕込みを頂いたのもまた事実。各家庭、また教会でお見せ戴いた事情身上、そして出直し。決して順風満帆とは言えない中にお通り下された先人達と、その厳しい節の中、心を倒してもこの道に心を繋いで下されたご家庭に感謝し、「一手一つのおつとめ」を親神様、教祖、そして出直されたご家庭の霊様方にご覧頂きたいと思つとめさせて頂いていただきました。それが教会を一手一つにする方法だと思つたからです。台風被害、現在のコロナ禍、家庭での悩み等、「今」お

見せ頂く神様からの事情身上、災難を思案し「おつとめ」への姿勢努力から見えてくる姿があると思つたからです。

奉告祭開始ギリギリまで鳴り物の音色が響き渡り、おつとめへの姿勢に只々感謝感謝でした。祭文に会長としての想いと、今日に至るまでの御礼を込め、おつとめをさせて頂きました。神様にお勇み頂くおつとめができたのかは私にはわかりません。しかしそこには、亡き父を想う人、緊張で震えながらつとめた人、楽しいと思つた人、練習通りに出来なかつた人、涙する人。色々な想いをおつとめに込めてくださいました。

因縁あつてお引き寄せ頂いた私達。おつとめを通して心を寄せることができたなら、私は会長として最高に幸せ者だと感じていきます。さあ我を張り過ぎず頑張るぞ!!

西駿支部
錦江大教会部属
錦道治分教会三代会長
堤坂 一成



十月二十六日、錦江大教会部属錦道治分教会三代会長の任命のお許しを戴き、十一月二十日、無事に会長就任奉告祭を執り行わせていただくことが出来ました。

錦道治の道は、昭和十九年、初代会長の一人息子が脊髄カリエスという病にかかり、そのことから初代会長の信仰が深まり、この上は親神様におすがりするよりほかに道がないと悟り、おたすけに励み、上級教会のお力をいただき、昭和二十八年四月十九日、錦道治分教会の理のお許しを戴き、今日の教会の基礎を築きました。

母である前会長は、九歳のときに養女として当教会へ参りました。なかなか、親子の縁が繋がらないいんねんがある中で、前会長が元氣でいるうちに、会長職を交代させて頂いたことを本当に有難く思っております。奉告祭当日、沢山の方にお越しいただき、本当に有難くも、結構な奉告祭を執り行うことが出来たことは、親々の積んでくださった徳の上ののらせていただいているということに改めて感じております。

錦江大教会長様より「三年千日、夫婦で得意分野を生かした、時間を忘れて取り組めるようなおたすけを」ということを仰っていただきました。

昨年から夫婦で話し合い、いろんな方々のお力をいただいで、鼓笛活動を始めさせていただきました。大教会長様のお話にもありま

したように、得意分野をいかしたおたすけ。鼓笛など、更に、夫婦で話し合い、教祖にお喜びいただける年祭活動を通していただきたいと思っております。

初代の元一日を忘れないよう、初代会長・前会長、またこれまで教会の上にお尽くしいただいた方々にお喜びいただけるよう努めさせていただきます。

上級・大教会にしっかりと理を立てて、教祖に使っていただきやすい人間になれるように、これから勤めさせていただきます。これからの思いです。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

